審議会等の会議結果報告

１．会　　議　　名	第２回観光振興ビジョン策定検討委員会
２．開 催 日 時	平成２９年８月２３日（金）午前１０時～午前１１時５０分
３．開 催 場 所	松阪市役所５階右側第２会議室
４．出 席 者 氏 名	（委　員）◎ 川口正人、〇 竹川博子、吉田悦之、竹川裕久、 矢吹誠志、木村秀之（◎委員長　〇副委員長） （事務局） 村林篤、和氣清章、榊原典子、長谷川浩司、柳瀬勝久、 近田弘之、田中新也、八橋友香
５．公開及び非公開	公　開
６．傍 聴 者 数	３人
７．担　　当	松阪市産業文化部観光交流課 TFL　0598-53-4196 FAX　0598-22-0003 e-mail kank.div@city.matsusaka.mie.jp

協議事項

１．委嘱状の交付について（委員交代による）
２．課題と第１回意見のまとめについて
３．対応方針について
４．その他

議事録

別紙

第２回松阪市観光振興ビジョン策定検討委員会　議事録

○日　　時：平成 29 年 8 月 23 日（水）　午前 10 時 00 分～午前 11 時 50 分
○場　　所：松阪市役所　5 階右側第 2 会議室
○出 席 者：(外部委員)
竹川博子、川口正人、吉田悦之、竹川裕久、矢吹誠志、木村秀之
(庁内関係課長等＝事務局)
村林篤、和氣清章、榊原典子、長谷川浩司、柳瀬勝久、近田弘之
○事 務 局：観光交流課　田中新也、八橋友香

～開会～

事務局：おはようございます。それでは定刻となりましたので、ただいまから、第 2 回松阪市観光振興ビジョン策定検討委員会を開催致します。本日はお忙しい中、ご出席賜りましてありがとうございます。観光交流課の田中と申します。よろしくお願い致します。今日は傍聴の方が 3 名来られていますのでよろしくお願いします。それから、近田参事は、隣の部屋で 10 時から市長記者会見ということで、終わり次第こちらにかけつけますのでよろしくお願い致します。
それではお手元の事項書に基づき進めさせていただきます。お断りですが、隣の会議室で保育園の面接をしておりますので、皆さまにはご了承頂きたいと思います。事項書の１番から進めさせていただきます。委嘱状の交付でございます。
今、お配りさせていただきました名簿にも記載してございますが、委員の交代があり、本日は矢吹誠志様にお越しいただいております。
産業文化部長の村林より委嘱状をお渡しいたしますのでよろしくお願いします。

（1） 委嘱状交付

委員：矢吹と申します。今回、社内の異動で担当となりました。途中での交代は皆さまにご迷惑をおかけしてしまい申し訳ございません。以前は、伊勢志摩エリア、また三重県の観光課の方に派遣されたこともありまして、津市に住んでおりました。若干ですが、松阪市についての観光の知識も持ち合わせておるかと思います。大役を仰せつかりまして微力ながらでも観光振興ビジョンの策定のお力になれればと存じます。どうぞよろしくお願い致します。

事務局：ありがとうございました。続きまして、前回欠席、今回から出席の関係課長として、柳瀬参事、長谷川課長、自己紹介をお願いします。

事務局：おはようございます。飯高地域振興局参事兼地域振興課長の柳瀬でございます。よろしくお願い致します。前回は飯南・飯高の代表ということで久世課長でした。今回から私の方が出席させていただきます。以前、27 年度は観光交流課の方にも籍を置いておりましたので、飯南・飯高の中山間地の観光の方も含めまして取り組みたいと思いますのでどうぞよろしくお願いします。

事務局：都市計画課長の長谷川でございます。よろしくお願いします。前回代理ということで建設部次長の長野でしたが、今回から私の方でよろしくお願いします。都市計画においては中心市街地のまちづくり、ということで力を入れておりますので

観光においてもまちづくりの発展という中でビジョンが策定できればと思いますのでよろしくお願いします。

事務局：ありがとうございました。それでは、続きまして事項書の２からは委員長の川口様に進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

委員長：みなさん、よろしくお願いします。今回２回目ということで、2 番の現行ビジョンの課題と第１回の意見のまとめについて、ということで、ここからは私の方から進めさせて頂きます。今日の流れは、この現行ビジョンの課題と第１回の意見のまとめということで、この時には実際には事務局の方で、今日、まずみなさんの資料の「現行ビジョンの 3 本柱と戦略を検討する」と「観光交流の振興」の 2 つが事前に送られていると思います。

この資料に基づいて進めさせていただきます。2 番の方については、現行ビジョンの課題と第１回の意見のまとめですので、それぞれ前回の会議の時に現行ビジョンの 3 本柱はそのまま引き継いで検討していくということでしたので、課題であったり、プラスで付け加えること、などについてこの委員会でもんでいくということで進めさせていただきます。今回の資料は課題をそれぞれの取り組みについて書いていただいていて、その次、四画囲みで書いているのが、第１回で出た委員会の意見ということで、事務局のほうで作っていただいています。ですので 2 番の方ではそれぞれの取り組みごとにみなさんに前回いただいた意見以外の課題やご意見を聞かせていただきたい。それについてどういう風に対応するかは 3 番の方で検討させていただきますので、2 番については課題、意見がこれ以外である、場合は言っていただきたいと思います。項目ごとに進めさせて頂きたいと思います。

まず、3 本柱のひとつで、「昔と今のつなぐ観光振興ビジョン」では、ここの中の取り組みの１が、松阪経営文化塾の開催となります。ここに課題と前回出た意見がありますが、他に課題があるなど、意見があれば言って頂きたいと思います。

委員：松阪経営文化セミナーは 5 年やっている中で、そのセミナーの中からいろいろ人と人、地域と地域のつながりが少し芽を出しつつありますので、第１回の委員会の意見でも書いていただいていますが、流動的な部分があって、意外なところから松阪とのつながりができるので、臨機応変に取り組んでいかなければと考えています。

委員長：セミナーの内容も含めて、ですね。

委員：それに付随して、前回と趣旨としては同じなんですが、今回の資料をもう一回見せてもらって思ったんですが、やっぱり昔から腐っても鯛、と言いますが、日本橋がなんといっても日本の中心、日本橋からの発信で何らかの人が集まる以上は、松阪としては絶対続けていくべき。団体の誘致は難しいと聞きますが、東京日本橋での発信はそれとは切り離して進めていく、ピンポイントで団体はやっていくべきで、たとえば島根県の浜田であり、宣長関係なら浜松であれ、秋田であれ、北海道などピンポイントでやっていくべきです、人が少しでも集まる以上は。

今、竹川さんからもお話しがありましたが、セミナーをやってそこで興味を示してくださった方が何度も松阪に来てくださっている。そしてその人たちは、すぐに即効性はないかもしれないが、かなり発言力というか発信力のある方なので、いろんなところで松阪というものを出して下さっている。すると、松阪木綿や松阪肉というような従来の松阪肉食べに行ったぞ、松阪木綿買ったぞ、という方は、じゃあ、こんな話知っている？というようにたたみかけてくださるのがかなり重要だと思う。もちろん東京でやるということはかなりの経費的負担もありますけど、だけど考えてみれば新聞や雑誌などの広告をうつことを考えれば効率もいいし、日本橋というものはどういう形であっても続けていってもらった方がいいのかな。

それと団体の誘客とは切り離して考えていった方がいい。前回のクラツーさんの話もありましたが、旅行会社のコストのことも関わってくるし、向こうも儲けなければいけないし、うまく折り合いをつけながらやっていくべきですが、おんぶにだっこで旅行会社頼みっていうのは、難しいのかなと思いました。以上です。

委員長：経営文化セミナーもこれから継続していくという意味では、前回も意見を言っていただいていますし、課題はそういう内容なのかなと思います。実際には対応方針については 3 番の方でしますので、次は取り組みの 2 は「観光交流拠点施設の整備」です。課題と委員会での第 1 回の意見のまとめということで、2 ページです。このへんは前回のまとめです。取り組みの 3、3 ページですね、観光パンフレットによるまち歩きの推進、というところですが、これは前回特に委員さんからの意見は出なかったのですが。では、2 番目の柱の「遊びと健康をつなぐ」観光振興ビジョン、ここは取り組み 4 ということで、松阪飯高の山ガイドマップの作成、これについてはキャンプ場のシャワーとトイレの問題も、前回意見が出ています。このへんは 3〜4 ページにかけて前回の意見を書いてもらっています。このへんは課題、意見どうでしょうか。

柳瀬参事、前回欠席されていますが、課題と意見が出ていて、大枠はここにかかれていますが、どうでしょうか。

事務局：距離、アクセスの問題がありますので、今、中山間部の問題として考えておりますので、これはこれで。

委員長：4 ページ目のところで、取り組みの 5 は松阪肉ガイドブックなどの作成というところで、松阪牛と書いてありますが、鶏焼肉のガイドブックが出ていますので、そのへんを書いてもらっています。取り組みは 4〜5 ページにかけてですね。このへんは前回走っていたところがあるので、１回目は意見がなかったのですが。

委員：インターネットの動画サイトで調べると、Japan、Beef で検索すると、今までは神戸牛が 1 番に出ていましたが、今は松阪牛が 1 番に出てくるようになったんです。自慢じゃないんですが、松阪市観光協会でつくった動画で、現在 230 万ビューくらいあって、動画で検索すると 1 番で出てくる、外国人に話すと神戸ビーフは知っていて松阪ビーフは知らないが、今は動画で検索すると松阪牛が 1 番に出

てくる。考えてみればすごいことだと思います。

委員長：すごい宣伝効果ですね。今は松阪豚もあるし、いろんな素材があるので、使っていければ。あと次、取り組み6は、飯高総合案内施設の開設、で具体的なところの部分になっていまして、前回は特に委員さんの意見なかったがよろしいでしょうか。最後の3本目の柱「交流と情報でつなぐ観光振興ビジョン」地域ブランドを活かした観光推進、こちらはいかがでしょうか。ここは取り組みなしで、次、「友好都市との交流」ここは前回の時に意見として、先ほど竹川専務も仰いましたが、墨田区が勝海舟さんとのゆかりのところでいろんなコラボレーションをしていきたいという申し出があるということでした。取り組みの9は多様な情報発信とうことで、これについても7ページに1回目の委員さんの意見が出ています。サービスエリアでの観光PRが効果的、どこの地域からきているか、調査の仕方など、課題など大枠を書いていただいています。全般的によろしいですね。
2番は前回から課題等でプラスがないか、ということでしたので、確認させていただきました。

委員：この取り組みの3、4番とも関わってくるのですが、昨日も夜、ある人たちとお話ししておりました、松阪の町を歩く、そして看板を作ろうという人たちなんですが、一体どこがそれをやろうとしているのかというとまちづくり協議会なんですよ。ここには、市観光協会をはじめ、観光業者等と連携し、と書いてありますが、今おそらく阿坂地区にしてもどこにしても、一番率先してやっているのは、まちづくり協議会。そして夕べの話は、旧市街地で例えば看板つくるのに40万、60万のお金がかかるということだったが、どっちにしても地域のこと、この地区にはこんなおもしろい屋根瓦がありますよ、屋根瓦なら外にあって家の中をのぞくわけじゃないからいいですけども、阿坂地区ならこんなものがありますよ、山ガイドにも関わってきますが、地域の人が地域のことを一番よく知っている、やはりこれは観光協会、観光事業者とのこともありますが、まちづくり協議会との連携も取り入れてほしい。飯高の総合案内所の開設はとてもいいことだと思うんですが、最終的には観光交流拠点とも関わってくるのですが、たとえば松阪に来て3時間の時間がある人たちが、食事をしてお城のまわりを歩いて、あと2時間、時間があれば、武四郎記念館でこんなことやっている、とか飯高で今こんなものあるよ、と三重県の方とも話していたが、東紀州に行かれる方も多いし、熊野古道に行かれる外国の方もいるが、必ず松阪を通っていくので、広域で案内、誘導できることはできないのか。竹川竹斎は幕末に関わった人、でも武四郎が黒船に乗って調査してるなんてこと、図まで書いていることは松阪の人でも知らないと思う。これからどういう風に発信するか知らないが、松阪にはいろんな面白いものがいっぱいあるから、まちの中で発信していけば絶対飛びついてくれると思う。

委員：以前、観光交流拠点についてデザインコンペがあったが、私、一つ疑問に思ったのが、デザインが新聞に出ましたよね、デザインは我々が決めたものと差があるな、と思ったんですが。その点と去年のデザインも含めて、中心市街地の看板と

道案内などもきちんと整備する、そこまであったと思うのですが、どうなっていますか？

事務局：デザインは私の方では存じ上げないので後ほど課長の方から説明させていただきます。看板は交流拠点の中に、まちづくりアレンジシステム、という端末で、いろんな情報が出て、タッチパネルによって、自分のマップを作成することがとできるというものがあるんです。来てもらった方が、自分が行きたいところだけのマイマップを作成してプリントアウトしてまち歩きすることができるというものがあります。31 年 4 月オープンなので、1 年間くらいこれらの動向を見た後に、どういうルートが比較的人が通るのか、そういったところと、地域の方の意見も当然取り入れ、どこにどういう看板を取り入れるか、という看板を設置する計画を 31 年度中に立てる予定です。看板については以上です。

委員：サインについては、いつも会議ででるが、結局は縦割りになってるからか、さっきの推奨ルートはいいとしても、サインそのものはなかなか進まないですね。

委員長：ちょっとずつ内容は変わっていますが。デザインの件については課長の方から。それでは今プラスで館長にも言っていただいた、地域住民の方もまち歩きの情報を創っていく中に入れていく、ということと広域の情報発信できる施設も、ということを追加で意見を反映させていただいて、事務局に資料をつくって頂きます。そしたら若干、3 番の中身の対応方針についても皆さんに言っていただいてましたので、3 番の方に進めさせて頂きます。

対応方針の検討について、2 番と 3 番の議論の仕方が微妙に同じようになっていたと思いましたので、2 番を走らせていただき申し訳なかったです。

続いて 3 番の方については、観光の柱、ということでそれぞれ皆さんにご意見を言っていただきたいと思います。その前に事務局の方で若干、以前のビジョンに反映したもので、先に現状でもう削除しているもの、今後の取り組みの提案しているものなどについて、柱ごとに事務局から説明していただきます。

事務局：今見ていただいた資料と、現行の観光振興ビジョンの 16 ページを開いて下さい。先ほどの検証資料との 1 本目の柱、1）昔と今をつなぐ観光振興ビジョンが 15 ページから始まっていますが、取り組みが 16 ページから出てきます。

これを対照しながらご覧いただきたいと思います。まず、現行ビジョンの変化があるところを申し上げますと、まず、丸の３つ目、具体的戦の豪商のまち松阪を楽しむ観光環境の整備、観光交流拠点の整備、というところで、建設がもうまもなく始まるところで、こちらの表現は変わってくると思いますので、改めて事務局の方から提案させていただきたいと思います。17 ページの黒丸 3 つ目の松阪もめん手織りセンターの機能移転、跡地活用、こちらも申し上げました交流拠点施設の建設と関連があり、建設に入っていくところでこの部分は、削除させて頂きたいと思います。松阪もめん手織りセンターの方は削除させて頂きたいと思います。とりあえず大きなところは以上です。

委員長：事務局の方から説明がございました、現行の観光振興ビジョンの１番目の柱につ

いては、15～18 ページまでが記載されてます。今お話しがありましたように具体的戦略の観光環境の整備のところで、交流拠点の整備であったり、松阪もめん手織りセンターの機能移転であったり、実際にやっているものは削除とのことです。ここから皆さんにご意見いただきたいのは、それぞれ残った部分について、ご意見やもっと記載した方がいいとか、新しくこの辺を付け加えた方がいいところ、などをまず 1 本目の柱「昔と今をつなぐ観光振興ビジョン」のところで皆さんに議論いただきたいと思います。具体的な経営文化セミナーの開催とか、このへんもです。木村さんご意見いかがでしょうか。

委員：前回の資料を社内に持ち帰って話し合った中で、北海道出身の人がいて、北海道の名付け親が実は松阪市出身ということを知って、武四郎に興味を持っていた。観光振興ビジョンの中にもあるように興味を持ちそうな地域に対しての PR が良いのでは。実は私も北海道出身だが松阪出身だと知らなかった。

委員長：16 ページ真ん中くらいにも、長期で、松阪の偉人・歴史・資源などを新たなコンテンツとして加え、そのゆかりの地域に働きかけるとありますが、その強化ですね。

委員：もうすこし具体的な戦略を。

委員：自分も知らなかったが、松阪にルーツをもつ商人たちが秋田にいるんです。

委員長：いろんなところのゆかりが探せばあるのでは。

委員：多過ぎるくらいある。

委員：吉田館長が仰ったように日本橋からの発信は重要、というのは大切だとわかるのですが、ずっと外で松阪が一生懸命やっているが、16 ページにも「松阪の誇りとして…」とあるが松阪市民が誇りとしての想いを持たないと結果につながっていかないのではないかと思って。外で一生懸命発信しながら、もう少し松阪の市民に周知して、本当に一生懸命やっていてこんなにすごいんだ、っていうことを多くの市民の方々が誇りに思うような内的な PR のようなものを平行してやっていかなければ。そうすることで最終的におもてなしにもつながっていくし、2 本柱にして進めていかなければと思います。

委員長：1 回目の時の意見で受入側の態勢もしっかりしなければ、そうでないとおもてなしの心が出ない、観光交流拠点についてはこのへんも重要なことだと思うんですね。

委員：日本橋でやった経営文化セミナーは中身がすごく面白くて、ちょっと歴史に興味ある人たちは食いついてきてくれてるので、同じような企画がなぜ松阪市でできないのかなと、いつも終わってから松阪でやればすごいのにね、とみんなが言ってくれるができない。勝海舟の子孫、髙山さんならいつでも飛んで来てくれる。彼女は、勝麟太郎が成功したのは松阪の商人のおかげ、と自分が出席するセミナーでも PR してくれる。その時には必ず松阪木綿を着て、そのときは松阪のパンフレットを配ってくれるくらい、松阪に惚れ込んでくれている、というか松阪に少しでも恩返しをと思ってくれている。そのような方を言葉は悪いが活用してや

っていければ。

委員長：外向けの部分が多いので、内部向けのこともということですね。日本橋と交流があるということ自体、一般市民もそうですし、会議所など事業所など経済会的にも知らない。

委員：今日の会議に出席するということで、そもそも観光って何か、本当に松阪に観光って必要なのか、市民に聞いたら松阪は観光地じゃない、とかいろんなことが出ていて、そもそも観光って何なのだろうか、これを考え出すと非常に難しくなってくるんですが、この観光ビジョンの策定について、というところを見ていくと、2つポイントがありまして、もっと交流人口を増加させて、地域産業・経済の活性化を促進するとこれははっきり出ていますよね、もう1個下から3行目のところ、「市民一人ひとりがまちの魅力を再発見し、その誇りと郷土愛を実感できる」とあって、私たちは外向けのことになっているところ、同じくらいの労力をかけて、東京であるいは他の地域でやるのと同じくらいの手間暇をかけるメニューを作っていく、これが観光振興ビジョンの目標に掲げているわけですから、市内の人たち、子供、高齢者、自営業者、あるいは松阪に働きに来ている人たちに、松阪のまちを楽しんでもらう、そして自慢してもらうようなメニューが必要。

委員長：歴史探索ツアーと書いてありますが、内向きにできるツアーをという意味ですね商工会議所では松阪商人塾をやっているが、実際やると半分以上市内の方。吉田館長にお話しいただくと、今まで全然知らなかった内容があると。再認識してもらうことが必要ということで、具体的戦略の中に、内部の人たちに知ってもらう施策を入れる、ということでよろしいですか。

委員：冊子をつくったじゃないですか、市民の方には配ったのか？（宣長の目）

委員：配っていない。記念館に来られる方には配っているけれど。

委員：あれこそ配るべき。

委員：受け入れ態勢ということで、武四郎さんのとことか、飯南・飯高の自然の部分、射和・中万、は点在しているじゃないですか。これ、交通をどういう風にしていくのかが問題の1つだと思うんです。今テレビなんかで路線バスの旅、って結構やっているじゃないですか、松阪は三交さんということになるんでしょうけども、1時間に1本の頻度でしかないのですが、もっと時刻表をチラシの中とか、ウェブサイトに落とし込んで、松阪に来た観光客が、バスの時刻表を見ながらまわれるルートを提案するとかも1つかなと。例えば１６６線を通って大石くらいまで行って、大石地区を散策して、射和・中万経由の松阪駅行きに乗って、射和・中万を散策してお昼食べて、もう少し散策したうえで松阪に帰ってくる、というような、バスの時刻はこうですよ、というような提案をすることがこれからできないかと。あるいは大石の拠点に貸自転車のベースをつくって、そこまでバスで行ってそこで自転車に乗り換えて走りに行く、そこをそろえてPR、情報発信していくとか、いうふうなことを考えています。

委員長：今の部分が現行ビジョンでいくと、17ページの具体的戦略３）のところですね。

広い範囲で自転車を利用する。

委員：もっと広い範囲で、既存のバスルートの活用、自転車やモーターのついているものがありますから結構、行動範囲も広がるので、坂道なども行けますし。

委員長：今そのビジョンの1個目の柱のところは、内向けでどんどん発信して、既存の書物なども作っているのでそういうものもどんどん内向けで発信していって、受入体制整備についても、もっと広域的に考えて、自転車であったりということが大事だと思います。そしたら2番目の柱について事務局の方から説明してもらいます。

事務局：2番目はビジョン19～21ページにかけてですが、1番目にある「松阪の山を楽しむための情報発信と環境整備」のところで、山のガイドブックが前回もふれましたが、そういうものをつくって活用していくという点、竹川委員からウェブに載せられないのかというところでしたが、作成団体に確認したところこのパンフレットが有料のためすぐに載せるのは難しいということでした。ただ、他の委員からもこういう山の情報をウェブで知らせていくのは大事だということでしたので、長期の戦略のところへ入れさせて頂きたいと考えております。21ページ、1番目の黒丸の「食のニーズ開拓」というところで、B1グランプリでございますが、今年は開催がなく、今後あったらどうかという動向もみながら、名称も変わるかもしれませんし、表現も改めたりしていきたい。主なところは以上でございます。

委員長：ありがとうございます。2番の遊びと健康をつなぐ観光振興ビジョン、についてご意見を頂きたいと思います。21ページの具体的戦略の3の短期、各種団体と連携した施設活用、の中で温泉施設を有するホテルスメールとありますが、スメールはもう今、実際にはないのでは。

事務局：スメールのホテル自体は、ペット、犬と泊まれるホテルとして営業しています。ペットと一緒でなくてもいいのですがそのような唄い文句でお客さんを誘致しています。温泉の方は犬が入れないので今までどおり営業していますので、表現を変えていただくというような形になると思います。

委員：あれは民間のものでなかなか難しいかもわかりませんが、スメールの看板は、県外では昔のまま使っていますよね。もしも観光客の方が来た時にどうかと思う。考えた方がいいと思いますが。

事務局：今のところ、まだお試し期間というところで、ペットと泊まれるホテルとしてやっていけるか、試験的なことをやっておりますので、あまり長期の投資ができない状態ですので、看板も言っておるんです。今までの名前がそのままのものがいくつかある、ということをある程度長期的にやっていけるかの目途がつけば、対処すると思います。ただ、パンフレットなどもあまり多く作らずやっていくようです。

委員長：食の方はどうでしょうか。さきほど食のニーズも出ていましたが、昨年、私もB1の全国大会に行ったが、松阪は肉のイメージがあるからか、列も長く人気があるのだなと思った。他にも松阪豚もあり、会議所で松阪肉三昧というものをつくっ

て、ビックサイトに行った時もあるんですが、他のところより人気があったので、プロデュースの仕方によっては良いのでは。

委員：私は大阪にいるんですが、市町村合併で大きくなったんですよね。松阪で山があり、自然体験ができるイメージがないため、情報発信を考えて進めていけば。川遊び、山のことなどをスポーツショップへ PR するなど、出し方ですね。そういうところでビジョンが必要かと。

委員長：21 ページの具体的戦略の 3 のところの、体験型とかの活用、を楽しむ、川を楽しむ、という点、サイクリングなどいいところがいっぱいある。

委員：松阪の山や川、自然が豊かというイメージがないので、それを打ち出していければ。

委員長：体験型、というところにもつながっていければ。

委員：関西エリアに情報を発信できれば。三重県は名古屋のテレビ局は入るし、中京圏からは情報が入ってくるが。大阪からは入ってこない。

委員長：名古屋からも来るが関西からも近鉄で来れる。

委員：柱が一本前になりますが、セミナーの開催地、関西・中部でも開催すれば？セミナーを開いてそれで終わりというのではなく、東京でやって現地に来てもらう、学んできてもらう、という流れでのツアーを考えられれば。

委員：去年クラツーさんが東京から実績としてあります。

委員長：継続性を持ってつながっていければ、ということですね。次、3 本目の柱、交流と情報でつなぐ観光振興ビジョンについて事務局から説明をお願いします。

事務局：3 本目の柱は 22～25 ページまででございます。23 ページの右側黒丸 3 つ目、ICT の活用というところで、平成 25 年から開設した「松阪ええもんネットショップ」については現在やっておりませんので削除させて頂きます。また、載っていないのですが、新たに付け加えたいのが、ご承知のとおり、島根県浜田市との交流のこともあるので、ふるさと応援寄付金があり、寄付していただいた方に松阪市・浜田市の特産品を返礼するというシステムがございます。これにつきましては浜田市と共に連携しながらやっていくということを地域ブランド課にも確認しましたので、「ふるさと応援寄付金での活用」という項目を新たに入れさせて頂きたいと思います。24 ページでございますが、交流都市との相互交流の促進ですが、後でもふれますが「近隣市町との交流」、という項目を 2 番目のところに入れさせて頂きたい。後でふれますが定住自立圏観光連携事業というものをやっておりまして、内容については触れさせて頂きますが「近隣市町との交流」という項目を 2 番目に黒丸として入れたい。黒丸 3 つ目の、海上アクセスの活用については項目ごと削除したいと思っています。主なところは以上です。

委員長：ふるさと応援寄付金への活用は 23 ページの具体的戦略 1 の短期のところに？

事務局：ICT を消して短期の 3 つ目に入れさせて頂きたいです。

委員長：それでは事務局に説明頂きました 3 つ目の柱、交流と情報でつなぐについて皆さんのご意見をいただきたいと思います。こちらは先ほど出てました情報発信とい

う部分が出ていますので、1つ目、2つ目でも情報発信というところは出ていました。先ほど言っていました中部・関西の方への情報発信も必要だということはここの項目に入ってくるかな、と思います。

委員：ICTの活用をお辞めになった理由は？

事務局：そこまでの活用、浸透がなかったからだと思います。

委員長：そこまで効果がなかったということですね。木村さん、この間、情報発信のこと仰ってましたが。

委員：そこに結び付けるようなコンテンツがあれば、PRしていければと。出口情報については社内で話しています。

委員長：前回も出ましたが、観光客入込客数というものが出ており、施設ごとの客数が出てるだけで実際どういうところから来ているかはわからない、というもので、資料にもありましたが、2,723,971人という数字はあるが、実際のところはよくわからない。どこからきているかというようなデータの把握が情報発信にもつながっていくのでは。会議所なんかにもよくNTTさんとかがこういう情報発信の提供ができるのでどうですかと来ますが、発信という意味では有効的では。

委員：私、秋もまた大阪でも東京でも話はするが、関西圏とか東海圏とか、話しをしに行ったとき思うのは、あるいは記念館に近鉄を利用して大阪関西圏からくる方と話すと、客筋、関心が違う。東京でやって受けた話を大阪でやって受けるかというと全然違う。一体どういう方たちが関心を持ってきてくれているのか、近鉄を利用して来て来られる方は、大きな目的は松阪を歩くことで、あるいは三重県を歩くというところにポイントがあって、荷物などからしても東京から新幹線を使ってくる方とは全然違う。関西圏・中部圏ということになったら、どのあたりに的をしぼっていくのか、どんな人たちが近鉄を利用して松阪に降り立っているのか、調べてやった方がいいかもしれませんね。

事務局：伊勢本街道、伊勢参りでは、奈良から出て、いくつかのルートを分けて御杖村に泊まって、御杖から飯南まで歩く、あるいは大石まで歩く、というふうにすごく分割して歩いている。関西で2月に1回くらいの割合で観光バスで来ている。夏場のこの時期でも、大石のあたりを朝早くリュックサックを背負って歩いている方、すごい数がいる。長谷街道でも歩いておられる方は、頻繁に皆さん歩いているようになっていて、私たちがイメージしている以上に関西の方が来られている。その人たちと話していると案内版は、特に大石から相可の方へ抜けていくルートが書いてない、ご飯食べられるところがない。館長が仰ったとおり、中心地に東京から来られる方は、起きて1時間2時間で伊勢志摩に行くという形で、関西の方は、きっと松阪に来て半日くらいぶらぶらしたい、人の動きってすでにあるが、把握しきれていないと思います。

委員長：把握が必要ですね。

委員：観光施設ごとに人のアンケートをとれば大体の動向がわかるのでは。

委員長：近鉄さんは、乗客数はわかるが、どこからとかの調査は？

委員：近鉄では、ＩＣ化が進んでいるので、ある程度はわかる。

委員：以前四国に行ったとき、市役所の職員が観光客をつかまえてアンケートをしてましたけど。目的やどこから来ているのか、など。

委員長：地道な活動ですね。

事務局：アメマクラブはどこから来ているかわかりますか

委員：アメマクラブはどこからかはわからない。マップを沿線でつくっているので、まち歩きについてですが、駅前には結構、お寺が多いですよね、でもあまりスポットが当たっていない。歴史と文化をつなぐというなら、お寺などももっと「ぶらり松阪」のマップに載せれば。

委員：檀家じゃなくて不特定多数の人たちに公開するのは難しい、でも今考えてもらっているんですよね。

委員：観光協会に来てまだ2年弱ですが、私がお城に行く道順を案内するときは、「職人町を通ると古いお寺を見ながら行けるよ！」と案内するが、職員さんたちはもっとわかりやすい道を案内したいって言うんですね。ちょっと視点が違うと感じました。もうちょっと自分たち観光協会もまちの資源をブラッシュアップ、掘り起こしをすべきです。

委員：岡寺山など、を紹介すれば。

委員：普段はそういうリードの仕方をしませんね。3つ目の信号を右曲がる、というのをよく聞きます。

委員長：実は職人町通りの方が粋な感じなんですよね。お寺多いですよね。この辺がもしかすると1番の観光ルートの再生というところにも入ってくるかもしれませんね。

委員：岡寺山のハンカチを落として厄を落とすなど、おもしろい話です。

委員：今ではハンカチを落とすとゴミになるといって、もうないが。ストーリーとしては非常におもしろい。一時期は箱が置いてありました。

委員長：一本筋違う通りが職人町通りと八雲通りで、いわれがいろいろある。

事務局：大阪に、辿っていけば大阪城に着けるとか、っていうようなものもあります。

委員：いいものあるでしょうね。松阪も真似して作っていますが、大阪の方がきれいでしたね。

委員長：この辺ですね、さっき出ていた交流都市とか相互交流のところは、その前に観光協会の竹川専務から出た墨田区なんかも、勝海舟さんを育てたのが松阪商人というところで新しいところとしてったらどうかというところですね。それぞれ24、25ページのところで項目がありますが、このへんはよろしいでしょうか。大枠としてのところで、追加した方がよいとか。細かいところの付けたしは今言ったものとして。とりあえず、3つの柱の対応方針の検討については以上で終わりたいと思います。補足の検討ということで、事務局から説明の方を、3つの柱について皆さんからご意見頂きましたが追加で項目があれば。

事務局：遅れまして申し訳ございませんでした。まず、会議の中で拠点施設のデザインについてご質問をいただいたそうですが、基本的に基本計画書を作らせていただい

てから、微修正のような、例えば都市計画審議会からご意見をいただいた部分で若干の修正をした部分もございますが、基本的な部分は変えておりません。本館で変更した部分については去年の9月に市長の方が議会で報告したように中での映像をＶＲからＣＧに置き換えていくという部分は変わっております。ほんのわずかな部分は変わっておりますが、デザインなどは変更しておりません。

委員：サインなどは？

事務局：サインは32年度予算で計上していくので、たとえば玄関におろすのれんのデザインが変わる、とかサインの少しの部分は変わるかもしれませんが、それは松阪木綿をつかうとか、あるいは看板のなかでレイアウトや絵が変わるとかはあるかもしれませんが微修正ということです。

それから検討の追加ですが、この観光振興ビジョンですが、26年に策定していただいたものを、総合計画が新しくなったということの中で見直しをかけていくということが一つにあるところで冒頭からお願いしているところです。その中で、お手元に配布させていただきました観光に関する部分の総合計画の中で主な取り組みというところで、2つほどNewとなっているところがございます。

外国人観光客の獲得に向け、PRと受け入れ態勢整備を民間事業者とともに進めます、もう一つ、広域で観光圏を形成するために、近隣市町とともに観光PRなどを展開します、こういうことを新たに総合計画の中に加えさせております。今回の観光振興ビジョンの中で、こういうどちらかというと横串の部分についてどういうことが課題であるとか、取り組む必要があるか、について委員の皆さまからご意見をいただくことができればありがたいかなと思います。どこの柱に入れるかということということよりも、全体の中で、インバウンドなら例えば食・自然、歴史・文化、情報発信にも関わってきますので、どこに入れるかということではないのですが、全体の中でこういう視点、こういう課題、こういう取り組みをというご意見等をいただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

委員長：今事務局の方から総合計画に併せて2つ新しく取り組む項目がある、という説明がありました、観光・交流の振興のところにも出ている外国人観光客に向けての取り組み、広域での観光PRについて2項目をビジョンに反映するということですので、皆さんご意見お願いします。

委員：どこのところに入れ込むか、迷っていましたが民泊が法律の改正があり、ご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、民泊の仲介をしているホームアウェイ社というアメリカの企業なのですが、去年の秋に日本に上陸して、この会社は基本的に別荘、別荘というのは所有者が年間30日か40日くらい使って後の時間は空いているわけですね。空いている時間を他の使いたい人に斡旋してあげて、収益を生むという視点の中で大きく成長してきた。その会社が日本に協力をしていて、瀬戸内のDMOと提携して瀬戸内の別荘をやるということですが、次のターゲットとして、松阪経営文化セミナーのひとつの成果だと思うが、志摩の空いている別荘地を斡旋する、その延長線上で、松阪は豪商のまち、ということで立派な御家

が空き家のまま残っている、所有者が東京や大阪へ行ってしまい空いている御家がいくつかあるのでは、と。ホームアウェイ社がターゲットにしている顧客が富裕層なので、5 人から 10 人くらいのグループで 1 週間くらいステイする、当然 1 週間もいると、松阪市内や周辺地域を散策することになるので、観光的にもメリットも多いのかなと。そこが、今月の頭くらいに視察に来てくれたんです。そういう動きがありますので、全体のどこに入れるかは別としても、民泊の活用、僕が考えているのは、市内うちも活用できればそれに越したことはないのですが、田舎の 166 号線沿いは、参勤交代で使っていた街道ですから、立派な御家が残っている。そんなところが旅行者に貸す、1 週間くらいステイする、もしそんなことが具体的にできてくれば地域の活性化にもつながるし、新しい観光の考え方に合致するのではと思うので、そういう概念もビジョンに入れてもらえればと。実際具体的な動きがありますので。付けたしですけどその下見には「ガイヤの夜明け」という番組がついて来て取材するくらい、注目をされている動きかなと。それが松阪を選んでくれたということでもあるので、どういう風な動きになってくるかわかりませんが、そんな動きも出てくるという前提で、概念としてそういう動きもビジョンに加えれば。

委員長：民泊もそうですが、町家の利用ということですね。行政の方の空き家バンクは飯南・飯高中心でやっているということですね。結構情報はあるんですか。

事務局：登録がないんですよね。まだ家財道具を置いていたり、正月・盆は帰ってくる方もおりますので。

委員：正月・盆は帰ってくるけど、その他の時期は空いているわけですよね。

事務局：そうですね。

委員：そこをなんとか活用できないか、ということです。田舎の方では仏間があるのでとか、そういう問題はクリアしていく課題として残るんですが、捨てておくのはもったいないし、可能性としてはすごくあると思います。しかも例えばホームアウェイ社は 1 兆 8 千億の年間の売り上げがあり、ネットワークとしては世界の富裕者層を対象にしてる。外国人が来て 1 週間そこに住まれることを周辺の住民さんがどう考えるかですね。そういうのも大きな課題ではあるんですが。

事務局：結構外国人の方が歩いているらしいんですよ。伊勢から奈良へ抜ける道なので、ヒッチハイクしながら 166 号を行かれる外国人の方も多いらしい。

委員：そういうスピリチュアルなところを求める人たちも増えてくるだろうし、あるいは日本の田舎の普通の生活を見てみたい。という人が増えてくるのでは。

事務局：日本に住んでいる外国人も来ているようです。日本語も話せるし、もちろん英語も話せる。

委員：今はスマホで言葉も通じるし、結構意思疎通ができる。今はそんなに怖がることはない。取り組むべき課題の 1 つになるのではと思います。何か 1 つ成功事例ができればあそこうまいことやっているから、うちらも行こうかと。

委員長：商店街の中にゲストハウスが 1 つできて結構お客さん入っているようだ。

委員：ここはどちらかというとバックパッカー向けの安いところですが、安ければ何日間か滞在してもらえる可能性もあるし、食事や街も周遊してもらえるし。

委員長：松阪木綿で街歩きも外国の方が利用したり、民間でもニューヨークに行って木綿のＰＲしたりっていうこともやってますし。

委員：ちなみに松阪は一昨年くらい前から外国人がポーンと増えまして、去年が一万人くらい、今年も三重県全体が減っているんですが、松阪は微増。増えています。結構海外のメディアの露出も増えてきましたし、取材も月 1～2 回あるし、今後期待できると思っています。

委員長：今、意見出ていますが、課題とかどうですか。いろいろ市さんも観光協会さんも外国人観光客向けの対応で個店向けのセミナーをやってもらってますが、なかなかセミナー参加者も少ない、と聞きますが商店街の方とかは海外の人に対しての意識がまだまだ薄いかなとそれも課題かなと思うんです。これも受け入れ態勢の問題かと。

委員：三重県はゴルフツーリズムで、ゴルフ客を誘致しようとしているんです。ゴルフ場によってものすごく温度差があるんです、消極的なところはキャディーさんとのコミュニケーションができないだろうと。でも先進的に取り組んでいるゴルフコースのお話しを聞くと、1,2 回キャディーさんはビビるけど、3 回目くらいからは全然問題なく外国人と関わるとか、ゴルフ用語も決まってるし、2，3 回ほど一緒に回らせたらキャディーも問題なくやりますよとのことで、そういう感じかなと。

委員長：いろんな意見がありますがどうでしょうか。

委員：一方的に発信するよりは、どこかでひとつ成功事例ができれば。今は口コミが一番大きいですよね。今は YouTube にアップしたりとか、それをみて次の人につながるとかが大きいですから。大きく考えずに、やっぱりどこか一カ所しぼって、ひとつひとつの成功事例を増やしていくのが重要じゃないかなと思いますね。

委員長：あと外国人もそうですが、もう一つ出ていた広域の観光 PR、定住自立圏の方で市さんも明和・多気・大台とやっているんですよね。

事務局：定住自立圏は、1 市 3 町という形でまとまってひとつのテーマ、たとえば自然とか食のパンフレットを作ったり、それを共同でＰＲしたりということです。
これ以外も当然インバウンドでしたら、遠方から来ていただく方でしたら伊勢志摩との連携が必要になりますので、伊勢志摩コンベンションに関わったり、伊勢志摩鳥羽インバウンド協議会や三重県と連携したりしてます。実態としては、海外からの取材はかなり増えていますし、昨年もかなりの数来ていただいています。また常に新しいところ、ということでベトナムなどは観光庁からの取材も来たり、松阪だけではできない取り組みをしているというのはご報告できるかと。

委員長：定住自立圏では、るるぶでパンフレットを作ったりですね。

事務局：これもパンフレットを作るということと、パンフレットを実際手に取っていただくにはどうするかという話の中で高速道路のサービスエリアに置いてもらったり、

伊勢志摩の旅館やホテルに来ていただいた方に帰り寄ってもらう中でそこに置かせてもらうことを中心に、作ることより出すことを中心に考えています。

委員長：その広域の観光ということを含めてですが。

委員：観光ってまず松阪市だけを考えていても、外からみえるお客さんは松阪市と例えば多気町のボーダーラインがどこ走っているかは全然関係ない話で、でも地図を見れば、松阪市で作る地図を見ると松阪市は色が着いているが櫛田川を越えたらまっ白、自立圏で作っていただいている地図は、エリアで作っているので川を越えてもまっ白になっていない。そういう地図がどうしても必要になってくるので、エリアで考えなければ。

委員：言われたような地図にできればこういうモデルプラン、車で移動するとトータルで何分かかりますよ、というものがあればわかりやすいかなと。歴史が知りたい方はこういうモデルプランというような。

委員：それをどういうふうに発信していくのかですね。ドライブのプランというものは例えば普通に観光施設に置いといて使ってもらえるものなのか、それとも出かけようという前段階で本当は欲しいですね。

委員：本当は計画の段階で欲しいですよね。出発する前に。

委員：それはネットが得意な分野ですね。

委員：ネットで事前に調べたりする人が最近多いので。

委員：最近ドライブマップなんかホームページを開くと、結構それに近いものが今入ってますから、それに松阪市が取り残されていかないようにうまく乗っていくということ。

委員：松阪市の観光のページを開いたら、ドライブのイメージがこうで、モデルコースがあれば、それをちょっとアレンジして行ってみようというと行きやすいのでは。

事務局：4 年か 5 年前に軽トラっていうアプリみたいのものがあって、コンプリートしたら何かもらえるというような、山陰の方でずいぶんやっておられたもので、あっという間にコンプリートしていく人がいて。意外とそういうことやりたいって思っている人はいるんですよね。

委員：スタンプラリー的なものをやっていくのは人気ありますね。日本 100 名城のスタンプを海外の人がもってみえて、どうされたんですか？というと香港で売ってるとか。

事務局：松坂城回って、田丸城回って、鳥羽城回ってというのも。

委員：今、観光協会で鳥羽城、松坂城、亀山城、津城、上野城の 5 つを回るというのが地域連携でやってます。

委員：ただ歴史民俗資料館の館長とこの前話していたんですが、10 分の 1 ですよ、つまりスタンプ押して入ってきてくれる人は。寂しいと思ったけどこれで交流人口増やすということではいいのかと。今歴民が閉まっているから記念館多いんですよ。東海・関西のスタンプなどを集めて記念館に置いてみようかと。外国人もそんなに回れないからかわいそうですし。記念館で全部押せても良いのでは。

委員：外国人はリピーターがすごく多いですね。

事務局：嬉野でフランスからやって来た人がいて、1 週間嬉野で泊まって自転車でうろうろしていた。

委員：そういう人が増えてくるので、そうすると民泊が必要になってくると思います。

委員長：1 週間の長期滞在への対応というのが生きてくるということですよね。

委員：さっきの話、ホームアウェイ社は旅館で、そこでカメラまわして従来の旅館のオーナーである社長さんとホームアウェイ社の日本社長との対談を撮ったんですが、すごい質問があって、日本の旅館というのは料理を中心に考えていて、普通はそこへ来て一泊して美味しい料理を食べて帰られる、でもこれからの流れは滞在します、5 日間滞在するとどんな豪華な料理でも、毎日同じようなものが出てきたら誰も食べませんよね、だから泊まったら必ずご飯がついてくるという経営の方針はどうですかね？という質問をされて、社長さんが言葉に窮していたというのを横で見ていたんです。確かにそうだろなぁと思って。1 泊目はうちの料理を、2 泊目 3 泊目は泊まるだけでもいいですよ、というような形態に変えていかないとこれからはきついのかなと思ったりして。

委員：松阪はメニューが多いからいいですね、そういう点。

委員：市内で食べ歩き、していただくというようなことも考えると。

委員長：いろいろ意見いただいた中、近隣市町との連携についてというのはさっき言ってた具体的戦略の中の 2 の現行ビジョン 24 ページの短期のところの 2 番目のところに入れるということですし、そこに入るのかなというところと外国人の方は、全般的に情報発信というところがあるのと、民泊の活用について町家などの活用とそういう意味での外国人観光客の長期滞在に対応していくということ、があったかと思います。事務局からあった 2 つの事項についてはこのようなところかと。
今回、いろいろ意見をいただいてので、これをまた、まとめていただき、次回事務局に示していただき、議論ということになります。
そしたら私の方で進める部分は以上ですが、今日は特に外向けも大事だが、内向けのツアーだったり内向けの市民の方に意識してもらうところがいると、という面ではさっきのお寺も含め観光ルートを考えていかなければいけない、ということが話しに出ていたと思います。議題のところについては以上かと思います。
ありがとうございました。事務局にお返しします。

事務局：ありがとうございます。また今回もたくさんのご意見をいただき、今日いただいた意見、前回いただいた意見等を現行ビジョンに反映させたものを次回ご提示させていただきたいと思います。次回については全体的な項目をもう一度見直し、ご意見をいただきながら修正等もしていきたい。かたちとしては素案の前段階というようなものをお示しできたらなと考えています。ある程度まとまったものをお示しして、こういうところがやはり欠けているであるとか、問題の掘り下げが足らない、などというようなご意見をいただければより内容が濃くなっていくのかなと思います。またよろしくお願いします。

それと、もうひとつお願いがございまして、次回お時間をいただきたいと思っておりますが、先ほど私入ってきまして、冒頭ご質問頂いた観光交流拠点に関することです。観光交流拠点本館という施設を 31 年 4 月以降のオープンを目指して今建築工事の入札等も終わって、議会承認をいただきながら進めていく過程になっています。

そういう中で建物については名称というものが必要になってきます。ただ、観光交流拠点は基本、外から来られた方がそこを訪ねられるというものなので、あまりきらきらネームみたいなものや変わった名前があると何かわからないものでは意味がないというところで、わかりやすいものをと考えています。観光情報センターがいいのか、あるいは観光ビジターセンターがいいのか、などいくつかの案を示させていただきますので、せっかく観光振興に関わっている方々がそろっていらっしゃるので、こういう名前にしたらわかりやすいんじゃないかとか、親しみやすく理解しやすいんじゃないか、というような意見をいただきながらネーミングについても考えていただきたいと思っております。次回資料等を出させていただきますので、ご無理を申しますが、あわせてよろしくお願いします。次回の内容についてのご案内は以上でございます。

事務局：事項書 4 のその他です。次回の委員会ですが、10 月 25 日水曜日午後 3 時からです。委員さま、関係課長さまには改めてご連絡させて頂きます。第 4 回目は、議会の日程が決まっている関係上、12 月の中旬、12 月 12 日から 15 日の間で決めていきたいと思います。

（日程調整）

事務局：第 4 回目委員会は 12 月 13 日水曜日、午前 10 時からでお願いします。以上です。

事務局：今日も長時間にわたり、熱心にご議論いただきありがとうございます。新たに観光拠点施設のネーミングのことですとか追加でお願いさせていただきました。

次回もどうぞよろしくお願いします。ありがとうございました。